

令和7年度 第3回平田地域協議会会議録（要約）

- 日 時 令和7年9月25日（木）午後1時30分～午後3時
- 場 所 平田総合支所 302号室
- 出席委員 9名
1号委員 長堀 恵理 小野寺孝延 石黒 初枝 今井さち子
山口 貴明
2号委員 石黒 由香 新楯 康 久松 由華 阿部 和葉
- 欠席委員 6名
1号委員 田中井広志 佐藤 真美 阿部 太郎 佐藤 善仁
丸山 清
2号委員 佐藤 正一
- 酒田市出席者 平田総合支所長 阿部 司
平田総合支所長補佐兼地域振興係長 池田 徹
- 傍聴者 なし
- 議事日程
1. 開 会
2. あいさつ
3. 会議録署名委員の選任
4. 報告
（1）酒田市過疎地域持続的発展計画の素案について
5. 研修
講師 長谷川 義人 氏（東陽地区地域おこし協力隊員）
6. その他
7. 閉 会

【協議会の概要】

研修として、東陽地区の地域おこし協力隊員である長谷川義人氏より地域づくりについて講話いただき、その後意見交換を行った。今後の地域振興に生かしていくこととした。

【会議録（要約）】

1. 開会

▶事務局より開会と欠席委員6名の報告

2. あいさつ

▶石黒由香会長あいさつ

前回の会議で、今年度の話し合うテーマを、皆さんからいろいろ出していただいた。皆さんも感じていると思うが、テーマが多岐に渡るため、市長報告会へどのようにまとめたらよいか判断に迷っている状況である。

前回の会議のなかでまとめた意見の中に移住者や世代を超えた交流とか、世代の交流の場づくりなどのワードがあったので、地域づくりの参考になるお話をお伺いしたいということで、今回は、東陽コミ振にいらっしゃる地域おこし協力隊員の長谷川義人さんにお越しいただき、お話をさせていただくことになっている。

▶阿部支所長あいさつ

3. 会議録署名委員の選任

▶会議録署名委員は、これまでどおり名簿の順番に指名することとし、小野寺孝延委員を指名した。

4. 報告

酒田市過疎地域持続的発展計画の素案について

▶池田支所長補佐が資料（素案の概要等）をもとに説明。

【4 酒田市過疎地域持続的発展計画の素案について 意見】

○山口貴明委員

過疎計画について他に意見を求める団体はあるか。

○池田支所長補佐

自治会長会から過疎計画について提案したいというご意見をいただいている。来月に各自治会長へ要望等をいただくような形でお示ししたいと考えている。

○山口貴明委員

今のところは、自治会長だけですか。

○池田支所長補佐

はい、そうです。

○山口貴明委員

この過疎計画は要するに、過疎地域における事業を進めるために、ある程度計画を作っておかないと実施ができないという計画であると認識している。過疎債という有利な起債対象事業を起こしていくためにも、この計画を作っている。

全地域という記載のものが結構多く見られるが、全地域ということは、支所地域以外の他のところは、過疎地域ではないので対象外であるはずなのにここに示されているのは、なぜか。

○阿部支所長

対象区域が全区域となっているのは、いわゆる過疎計画区域内のことである。例えば、八幡地域、松山地域、平田地域とそれぞれ分かれているが、この全地域というのは、あくまでその3地域をすべて包含した区域ということである。

○山口貴明委員

具体的に言えば、コミュニティセンターを全地域としたときには、使用地域のコミュニティセンターを整備するとしたときには、3総合支所の全地域が対象になるという理解でよいのか。

○阿部支所長

その通りである。3総合支所のエリアを対象とする計画である。

5. 研修

講話 酒田市地域おこし協力隊 東陽地区隊員 長谷川 義人 氏より地域づくりについて講話いただいた。

【5 地域おこし協力隊 隊員 長谷川 義人 氏の講話を聴いて】

○小野寺孝延委員

先ほど過疎地域持続的発展計画の素案について説明があったが、どのようにしたら活性化できるのか、具体的なものがあれば、お聞かせいただきたい。

○長谷川義人隊員

活性化に向けて、人口減少が最大の問題だと思う。人口が少なければ、それだけ商業もすたれていくし、学校も無くなっていけば予算が削られていく。

特に子供の人口が減るのは、何よりも痛いことだと思う。私が子育て世代を里山に1組でも多く入れたいと考えるのは、国の予算のシステムの関係もある。やはり子育て世代を、積極的に招き入れることである。そのための体験ツアーやお試し移住はもちろんであるが、旅行に来ていただくこと。旅行に来たら泊まっていただく場所、民泊でも、農家民宿でもいいので、何か作れないかと思う。とにかく一晚過ごせる所が欲しい。

しかし、個人でいきなり勝負するのは難しい。地域や行政など共同のキャンプ場などの施設が一番リスクは少ないと考えたので、キャンプ場という例を挙げさせていた

だいた。キャンプ場があれば、地域の間伐材を利用したアスレチックや木製遊具などをアピールすることができる。陶芸作品などいろいろなものをキャンプ場で売ることもできる。

情報発信や活性化には、まず地域のシンボルとなる施設が必要ではないかと考えた。地域のブランド化した農産物や加工食品の発表の場として、また文化活動であるコンサートや野外コンサートを開催したり、いろいろな事ができる場所となる。ランドマークが1つあれば、皆さんがここに結集するのではないかと思う。

○小野寺孝延委員

活性化とは話が違いますが、先ほどの話にあった現代貨幣理論に非常に興味をそそられた。日本人は生まれた子にも借金がある。しかし実際に調べれば、そうではない。これはメディアが全然関係のないこと、変なことを発信している。これは活性化とは関係ないかもしれないが、知っていれば非常に有効なことだと思う。機会があれば、ぜひ教えていただきたい。

○長谷川義人隊員

承知した。

○山口貴明委員

長谷川さんの話は、悠々の杜の周辺整備を進めたらよいのではという夢のある話だと思う。悠々の杜の開発当時は、当初温泉だけを作ればいいという話ではなかった。地元の方との話では、宿泊施設も欲しいという意見もあり、宿泊施設の計画も練り上げたが、その後、市町村合併などもあり当初の計画は、ほとんど雲散霧消で消えた。

最近、都会の人たちが、喧騒を離れて自然に帰りたいという趣旨のテレビ番組が結構あるが、酒田市は自然に帰るといふ方向を向いていないと感じる。

この前、市議会で鳥海高原家族旅行村についての一般質問があった。鳥海高原家族旅行村の施設も老朽化して、もう何年間も雨漏りしているところがあり、貸し出しもしていない。なぜ直さないのだろうかと思う。

酒田の市民は自然が好きではないようである。都会の人をもっと呼び込むくらいの気持ちでやらなければいけないと思う。そういう意味では先ほどの話でキャンピングカーやグランピングができるようなフェスなどの話は、あまりお金をかけずにできると思う。

過疎計画でその他に悠々の杜で計画が予定されているのは、悠々の杜温泉施設修繕事業の浄化槽を始めとする老朽化した設備の改修等だけである。少し寂しい感じがする。観光の本気度というか、酒田市としての本気度をどこに出せるのか、今が考える時だと思う。

○長谷川義人隊員

酒田市は大きな市だから、山エリア、農村エリア、海岸エリア、商業エリアといろんなエリアがある。中心部は今、若干寂しい状態であるが、観光の流れでいうとクル

ーズ船の観光ルートを見ても、山居倉庫、出羽三山神社、鳥海山に行つて、後は酒田市外に行つてしまう。何故かという酒田に有名な泉質の温泉がないからである。温泉があれば、酒田に足止めができる。海岸沿いに少し有名な温泉があるが、山手の方には、泉質は良いが、小ぢんまりとした温泉しかない。

しかし、小ぢんまりとした所でもキャンパーにはそれで十分である。やはり、この美しい平野を見渡せる眺望は、爽快感もあり、夜空を見上げれば満天の星が見える。地形や自然、眺望を全て生かして、地元で生産されるおいしい食材が安く買える施設なら、そのキャンプ場自体が目的地になるので、ホテルにも負けないと思う。

すると、そこにお客さんが来るのだから、もっとアイアイひらたにお金をかけよう。もっといい施設を作ろうとなる。テストみたいな感じでやってみたらいいのではないかと思う。できるだけお金をかけずに、なおかつ、いろいろなことに活用できるように、専門家の意見も踏まえて、いろいろなキャンプ場を見て回りながら、平田にふさわしい形のキャンプ場を作って、人気が出たら拡張していけばいいと思う。

とにかく大事なものは住民の熱意である。住民の皆さんの熱意がなければ、議員も動けない。住民の熱い声を届けるためには皆さん自身と住民の皆さんの熱意である。思いが高まってくれば、必ず実現する。

○石黒由香会長

キャンプ場というワードは何度となく、過去の市長報告会の文章に載っている。これまで市へ施設の提案をたくさんさせていただいた。しかし、実現していないということは、熱意も足りなかったと思うが、市長の心には届かなかつたということである。もう少し真剣に熱意をもって、この会から発信すれば、本当に動かなかつたものが動いてくると感じた。ぜひ一緒に参加していただいて、動かしていけたらと思う。

事務連絡

- ▶車賃の支払いについて事務連絡

6. 閉会

- ▶石黒会長閉会